

「経済安全保障を考える」

大阪外国語大学 村山裕三

1. 経済安全保障とは何か？

- ・ 経済と安全保障が重なる分野を扱う
- ・ 典型例は軍民両用技術：半導体、GPS など
- ・ 注目されてこなかった分野－「経済安全保障」は存在しない？
- ・ 日本特有の分野：日本は「軍事力に制限を設けた通商国家」
- ・ 1980 年代－総合安全保障：日本経済（エネルギー源など）を守るための安全保障
- ・ 現在問われているのは－技術・経済は安全保障のために何ができるのか－国際的な日本の地位向上、世界における日本の存在感なども視野に入れる

2. 他の国はどのように対応しようとしているのか？

- ・ 現在の世界的な課題：技術を経済以外にどのように使うのか？
- ・ 技術の一大トレンド変化：軍>民から民>軍へ－民生技術を軍事、安全保障に使える可能性が広がりつつある

アメリカ

- ・ 民生技術の発展を軍事に取り入れる－RMA（軍事革命）の推進－イラク戦争での圧倒的なハイテク軍事力
- ・ 軍事技術の世界一極化－民生技術を組み込むシステムの確立が背景
- ・ 9.11 テロ－国土安全保障省の設立－テロ対策のための技術開発

EU

- ・ EU 内で防衛産業の統合化、民生技術の利用
- ・ アメリカによる軍事技術の一極集中化を食い止める役割

中国

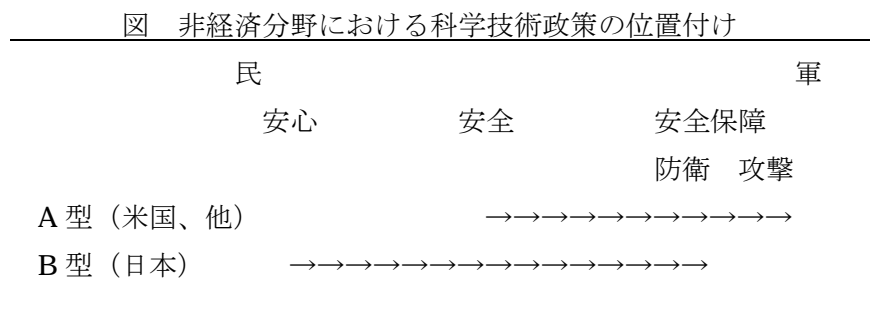
- ・ 軍民転換の推進：民生技術と軍事技術の壁を取り払って、両者の競争力の向上
- ・ 米国への対抗意識：「中国特色的軍事革命」（情報化、デジタル化）

韓国

- ・ 「両用技術戦略」を使った「21 世紀先進情報技術軍」の実現を国家目標
- ・ 民生技術を使って自主技術開発を行い、米国の兵器体系から抜け出す必要性

3. 日本はどの方向をめざすべきか？

- ・ 技術を経済のみに使う発想から抜け出せないと、「技術漂流」の可能性
- ・ 民生技術→軍事技術強化の方向には進まない（めない）
- ・ 他の国（A型）とは異なる方向（B型）で、グローバル・スタンダードをめざす
- ・ 科学技術基本計画（2001年）－「安心・安全」のための技術開発が一つの柱－ここからの出発－そして、「守る」ための安全保障技術まで
- ・ 重点分野－自然災害、感染症（バイオテロ）、テロ対策（新たな安保）、サイバー攻撃、「守る」防衛技術など



4. 日本の可能性

- ・ 政治的に日本にしかできない（アメリカを利用する戦略）
- ・ この分野で日本の技術力あり－既存の民生技術の転用：ジオ・サーチ、ノーベル田中さんの技術、センサー、ユビキタスなど－国際標準化→経済競争力
- ・ 人、物、情報の流れをスムーズにする技術－通商（海洋）国家としての国際的役割→国際的な存在感

課題

- ・ 今まで分離されてきた「安全保障」と「経済」を統合する必要性－これを実現させるのが「経済安全保障」の発想－技術がその第一歩
- ・ 政府の「安全・安心分野のニーズ」と企業の「技術力」を結びつける必要性
- ・ 産官間の技術マネジメントの手法を開発→新たな産業政策の可能性（キャッチアップ+旧産業政策+ファミリー型開発に変わる方式を生み出す）